

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：平成 29 年 4 月 15 日 報告者：有馬 武史、大坪 弘明

行事種別	研究会	行事番号	170000457	
開催日	平成 29 年 4 月 1 日 (土)			
時間	開始	14 時 30 分	終了	17 時 00 分
場所	株式会社スズケン 名古屋支店 2 階会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	移植医療の現状			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	名古屋大学医学部附属病院 有馬 武史 愛知医科大学病院 大坪 弘明			
講師	講演1 誰でも始められる免疫抑制剤のTDM～最新トピックを交えて～ ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社 山田 洋一 講演2 臓器提供の流れと実際 公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク 後藤 清美 藤田保健衛生大学病院 加藤 櫻子			
内容	<p>前半は、免疫抑制剤の TDM について、後半は臓器移植の現状について紹介いただいた。講演では、TDM の基本的なパラメータから、代謝産物との交差反応性、予想外の結果が出た場合の考え方などをご紹介いただいた。TDM において試薬間差があることは知られているが、その原因が代謝産物との交差反応性にあることが改めて示された。しかし、代謝産物でも生理活性を持つ場合があることから、何処までを測定結果に反映させるかは試薬の設計理念によるとのことであった。TDM 検査は通常の測定項目とは異なる点が多く、今後の日常業務に大いに役立つ重要な知見を得ることができた。</p> <p>後半は、臓器移植の現状と、脳死患者の発生から提供までの一連の流れをご紹介いただいた。脳死からの臓器移植が法制化された後も、移植件数自体は増加しておらず、今後も情報提供活動が必要とのことであった。法的脳死判定から移植手術までのタイムスケジュールの説明では、ope 室利用や摘出臓器の搬送の事情により、移植術は深夜帯に実施されることが多いとの事であった。会場からは、提供者が発生した場合の医療機関側の金銭的な負担について、提供の同意に関する「家族」の範囲についての質問等が出され、活発な質疑応答が行われた。普段、家族で臓器移植を話題にすることは少ない。今回のような講演会を通して、臓器移植についての正しい理解を深める重要性を再認識した。</p>			
参加者	総数：45 名（会員 38 名、非会員 1 名、賛助会員 6 名、学生 名、その他 名）			
共催、後援など				

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：平成 29 年 7 月 10 日 報告者：岡本 明紘、服部 拓哉

行事種別	研究会	行事番号	170006576	
開催日	平成 29 年 7 月 1 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	リップルスクエア (所在地 名古屋市)			
テーマ	肝疾患バイオマーカーの活用			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	名古屋掖済会病院	岡本 明紘		
	名古屋第一赤十字病院	服部 拓哉		
講師	講演 1 肝機能に関わる検査データの読み方 豊橋市民病院	森下 拓磨		
	講演 2 肝線維化マーカーM2BPGiの有用性 名古屋大学医学部附属病院	有馬 武史		
	講演 3 “肝疾患病態指標糖鎖バイオマーカーM2BPGi”の開発 シスメックス株式会社タンパク技術グループ	中林 一樹		
	講演 4 肝線維化マーカーM2BPGiの最新の話と今後の可能性について シスメックス株式会社学術サポート課	松木 信行		
内容	講演 1 では、肝臓の解剖から始まり、肝機能検査の目的別に、それぞれ生化学項目、肝線維化マーカー、腫瘍マーカーと説明していただき、症例を通して基本的な肝機能検査データの読み方を学んだ。講演 2 からは、肝線維化マーカーである M2BPGi について説明していただいた。肝線維化判定では、肝生検がゴールドスタンダードとされるなか、侵襲性やサンプリングエラーなどの問題から、簡便に測定でき、診断に有用とされる線維化マーカーの開発が進んできた。国内の産官学共同開発により誕生した M2BPGi は、疾患により変性した M2BP の糖鎖を検出することで肝機能傷害を反映する。肝線維化の程度を示す指標として周知されてきたが、最近の研究では線維化の前段階の個体でも上昇することや、肝発癌予後との良好な相関が次々と報告されている。新規マーカーということで、偽陽性・偽陰性を含め M2BPGi の臨床的意義は今後変化していく余地があるため、我々検査技師が臨床現場から情報発信していくことの重要性を感じた。			
参加者	総数：95 名 (会員 90 名、非会員 名、賛助会員 5 名、学生 名、その他 名)			
共催、後援など				

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：平成 29 年 12 月 21 日 報告者：齊藤 翠

行事種別	講演会	行事番号	170057077	
開催日	平成 29 年 12 月 2 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	リップルスクエア (所在地 名古屋市)			
テーマ	検査データをどうよむか ～技師目線、医師目線から考える～			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	公立西知多総合病院 藤田保健衛生大学病院	山内 昭浩 藤田 孝		
講師	症例① 悪性貧血 症例② 腫瘍崩壊症候群 藤田保健衛生大学医学部血液内科学講座 稲熊 容子 藤田保健衛生大学病院臨床検査部 齊藤 翠			
内容	<p>R-CPC 形式で、2 症例について講演を行った。今回の目的は、臨床検査技師が検査データのみから、どのように病態を解析していくのか、また医師は、その検査データを診療においてどのように活用していくのかを考えることにあった。そして、今一度、検査技師は検査データを提供するうえで、どこまでできるのか、あるいは、何をすべきなのかを考える機会を設けることを目的とした。検査技師としてデータを見ていくうえで、まず、異常値を抽出できること、そして、異常値の中でも一般的な個体内変動とは異なる変動を示す項目に注目することが大事である。そこから、あらゆる可能性を考え病変組織を推定し、精査に向けて臨床に助言できる知識を身につけるべきである。また、医師は、我々が考えている以上に検査のタイミングを考え、検査データを待ち望んでいる。我々は、速やかに検査結果を報告し、パニックに限らず、診療において重要な検査値、または、検査の変動を認めた場合は、速やかに医師に報告する義務がある。臨床検査は疾病的な診断のために必要なもので、迅速性と正確性が求められている。現在では、システムや機器の進歩により精度の高い結果を大量処理することが可能となったが、その反面でデータが垂れ流しになっていないか、今一度振り返る必要がある。そして、臨床で必要な知識・技術の習得に努め、診療に必要な情報を的確に臨床に伝えられるよう努めなければならない。</p>			
参加者	総数：108 名 (会員 107 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、その他 1 名)			
共催、後援など	生物試料分析科学会東海北陸支部例会			

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生物化学分析検査研究班 提出日：平成 30 年 2 月 11 日 報告者：蜂須賀靖宏、高井 美帆

行事種別	研究会	行事番号	170064424	
開催日	平成 30 年 2 月 3 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	株式会社カーク本社ビル 5F 大会議室 (所在地 名古屋市)			
テーマ	平成 29 年度愛臨技精度管理報告・免疫チェックポイント阻害薬について			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	厚生連渥美病院	蜂須賀靖宏		
	厚生連豊田厚生病院	高井 美帆		
講師	<p>講演 1 臨床化学部門 精度管理報告</p> <p>厚生連江南厚生病院 林 克彦</p> <p>愛知医科大学病院 森部 龍一</p> <p>講演 2 免疫血清部門 精度管理報告</p> <p>名古屋掖済会病院 岡本 明紘</p> <p>講演 3 免疫チェックポイント阻害薬～副作用と検査モニタリングの重要性～</p> <p>ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 矢野 邦明</p>			
内容	<p>精度管理報告では両部門とも例年と大きく傾向は変わらず、良好な結果が得られたことが報告された。今年度から免疫部門で PIVKA- II の調査が行われた。一方で試薬の登録間違いなどを行っている施設も散見された。また、来年度は HbA1c 試料を検討しつつも管理試料が用いられる見込みが強い事や、ドライ法の評価幅について検討していく事などが報告された。</p> <p>講演 3 では、免疫チェックポイント阻害薬の現在と今後について詳細に講演された。癌治療の最後の砦として使用される免疫チェックポイント阻害薬は、重篤な副作用が多く報告されており、患者が投与スケジュール上、来院しない期間に発現してしまうケースも少なくない。その為、注意深く副作用モニタリングを行い検査結果の異常に対し即時に対応する事や、副作用の兆候などを患者自身に教育する事が重要である。その為に一部の専門病院ではチームを編成し、その中に検査のプロとして臨床検査技師が参画し活躍している事が報告されている。</p>			
参加者	総数：75 名 (会員 65 名、非会員 名、賛助会員 10 名、学生 名、その他 名)			
共催、後援など				